

令和5年6月7日

東京医療福祉専門学校
校長 殿村 康一 殿

学校関係者評価委員会
委員長 近藤 昌之

学校関係者評価委員会報告

令和3年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員

- ① 近藤 昌之 (株式会社シー・エム・シー 代表取締役社主)
- ② 藤井 剛寛 (株式会社F.C.C 代表取締役社長)
- ③ 浅谷 健介 (学校法人浪越学園 日本指圧専門学校 学校長)
- ④ 橋元 壯太 (有限会社ジョイフル 代表取締役)
- ⑤ 奥 優二 (株式会社久庵)

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 開催日 令和5年3月27日(月)
- ② 会場 東京医療福祉専門学校 602-603 教室 (東京都中央区八丁堀 1-11-11)

3. 学校関係者評価委員会報告 別紙のとおり

以上

別紙

I 事業計画について

学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」を成すための事業計画について、検討および質疑応答を行った。また、令和3年度はコロナ禍の最中である事を念頭に置きつつ、コロナ禍における学校運営について評価を行った。

II 各評価項目について

1. 教育理念・目的・人材像

評価基準1「教育理念・目的・育成人材像」に関する検討において、各委員からは以下の意見が挙げられた。

- 業界全体へ参入を試みる人材が減少していると感じる部分がある。産学連携を取りつつ、業界への参入を志す者を増加させていかななくてはならないと考える。
- 学校が定める育成人材像を、入学検討者のニーズに合わせる必要もあるのではないかと考える。従来であれば「手に職を付ける」、「技術を修得する」といった独立開業の目的意識を持つ者が多かったが、時代の変化に伴い、従来よりもライト層が増えているのではないかと感じる。

2. 学校運営

評価基準2「学校運営」に関する検討において、委員から以下の意見が挙げられた。

- 獲得したい学生像を明確にし、ターゲット層に合わせた広報活動を実施することで、さらに円滑な学生募集活動ができると考える。
- 当初設定している目標を達成できていない箇所があるが、コロナ禍での学校運営であることを鑑みると適切な運営が出来ているのではないかと考える。

3. 教育活動

評価基準3「教育活動」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 東京医療福祉専門学校でしか学べない技術があることは素晴らしいと考える(具体的には中医学)。反面、修得した知識・技術が卒後の就職活動に反映されにくい部分があるので、そのことについては改善が必要であると考え。(中医学を実践している現場・就職先が少ない)
- コロナ禍であるため仕方がない部分もあるが、臨床実習における患者数の減少については、今後改善を要すると考える。
- 教育訓練給付金制度に頼る学生募集をすることで教育が振り回される面がある。同制度を受けずに運営して行く学校づくりが理想と考える。

4. 学修成果

評価基準4「学修成果」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 国家試験合格という明確な基準があるため、国家試験合格率については今後も重要な指標として注視していく必要がある。反面、国家試験合格のためだけの学修では、実際の臨床現場で活躍することは難しい。国家試験合格と卒後のキャリア形成を両立できることが望ましい。
- 学修成績が上位層の学生と下位層の学生の二極化しているように感じる。下位層については、国家試験合格に至らないケースがみられるため、成績格差を改善していくための取り組みが必要であると考え。

5. 学生支援

評価基準5「学生支援」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 中途退学者数は横ばいであるが、学校生活においてストレスを感じる学生が増加傾向にあるように感じる。今後も継続した学生サポートの実施をお願いしたい。
- 退学原因は「学力不足」であることが多い。入学段階で、専門学校における勉強の大変さを周知し、高い目的意識で入学に至る取り組みを行う必要がある。
- コロナ禍での課外活動はネット上での活動が主で、実技は中止している。コロナ禍が収束した暁には、従来通りの対面形式・実技形式での課外活動を積極的に実施していただきたい。
- 保護者との連携はLINEで行っており、評価は良好な様子。今後も本取り組みを継続し、家庭・学校が二人三脚で学生をサポートしていただきたい。
- 専門実践教育訓練給付金・高等教育修学支援新制度などの公的サポート受けることが出来るように、対象校(確認校)である要件を満たすための取り組みは継続していただきたい。

6. 教育環境

評価基準6「教育環境」に関する検討において、委員から以下の意見が挙げられた。

- 学外臨床実習の実施に際して、学校と受け入れ企業側で連携を強めて、より質の高い学外臨床実習を実施できるように取り組んでいく必要があると考える。

7. 学生の募集と受け入れ

評価基準7「学生の募集と受け入れ」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 各学科の定員数から鑑みると、現行の学生数では募集活動に苦戦している状況であると考え。学校広報やマーケティングについて再度検討を行い、円滑な学生募集を実践していただきたい。
- 学校としてのコンテンツに魅力はあると感じる部分が多い。卒業生を受け入れている企業として、東京医療福祉専門学校の卒業生は技術レベルが高く、目的意識も高い者が多い。既存の魅力あるコンテンツを対外に PR していけば学生募集活動も安定してくるのではないかと考える。本校は、技術・信頼は有るので PR のノウハウ確立が今後の課題。
- 企業サイド(現場サイド)としても、資格を取得する意義、資格の価値を高めていく必要があると感じる。業界全体の先行きが暗いと、進学を希望する者も増加してこないため企業としても資格の重要性を高める取り組みを実践していきたい。

8. 財務

評価基準 8「財務」に関する検討において、委員から以下の意見が挙げられた。

- 学校法人として適切な学園運営を実施していく事を心がけていただきたい。

9. 法令等の遵守

評価基準 9「法令等の遵守」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 法令を遵守したうえで、適切な学校運営を実施していると感じる。
- 厚生労働省に認可される専門学校として、今後も適切な学校運営を実施していただきたい。

10. 社会貢献・地域貢献

評価基準 10「社会貢献・地域貢献」に関する検討において、各委員から以下の意見が挙げられた。

- 今後も社会貢献・地域貢献に対して積極的に取り組んでいただきたい。

以上